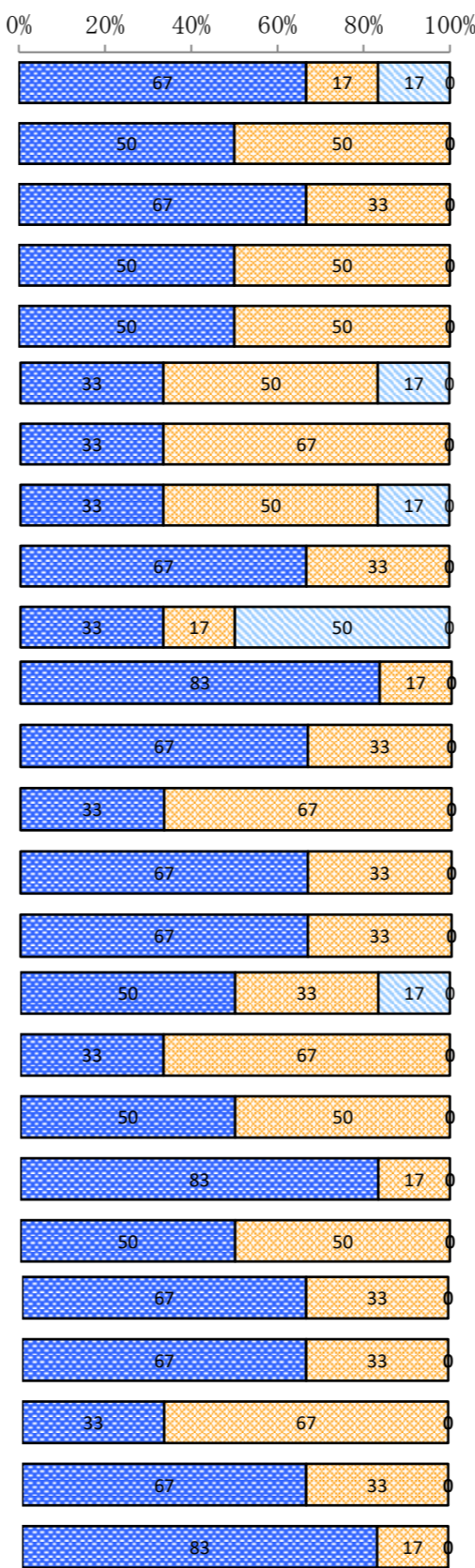
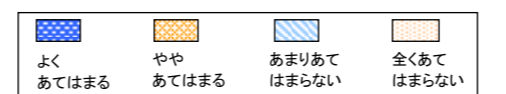


		評価項目	評価結果				
			A	B	C	D	
学校全体の様子	1	教育目標・方針	児童・生徒や保護者等と共有できるように学校の教育目標を示し、方針を説明している。	4	1	1	0
	2	児童・生徒の様子	児童・生徒は、明るく素直で、生き生きとした楽しい学校生活を送っている。	3	3	0	0
	3	基本的な生活習慣	児童・生徒の服装や通学態度、挨拶など基本的な生活習慣がしっかりしている。	4	2	0	0
	4	児童・生徒理解	児童・生徒の良さや努力しているところを見つけ、励まし、理解しながら一人一人の能力を伸ばすように努めている。	3	3	0	0
	5	健康・安全・安心	児童・生徒の健康や安全（確保・対策）に配慮するとともに、主体的に行動できる防災教育を充実している。	3	3	0	0
学力向上の取組	6	分かる授業	楽しく分かりやすい授業が実践されている。	2	3	1	0
	7	個に応じた指導	習熟度別学習等、児童・生徒一人一人の理解の程度に応じた学習指導が行われている。	2	4	0	0
	8	学習習慣	放課後の補充指導等を行うとともに、家庭での学習課題を提示する等、学習習慣の定着を図る工夫をしている。	2	3	1	0
	9	情報教育	タブレットPCなど、ICT機器を活用した教育を推進しながら、情報活用能力の育成に向けて取り組んでいる。	4	2	0	0
	10	学校図書館の活用	読書と学習に役立つ学校図書館として活用されている。	2	1	3	0
社会性・人間性の育成	11	人権教育	自他を大切にし、偏見や差別を許さない豊かな人権感覚を育てる教育を行っている。	5	1	0	0
	12	道徳教育	生命を大切にする気持ちや他人を思いやる心、善悪の判断や規範意識を育てる等、道徳性をはぐむ教育を行っている。	4	2	0	0
	13	教育相談	教育相談を充実し、いじめや不登校を防止する等児童・生徒一人一人の居場所がある学校づくりに努めている。	2	4	0	0
	14	人間関係づくり	学校行事等の教育活動を工夫し、体験活動を充実させながら望ましい人間関係が築けるよう取り組んでいる。	4	2	0	0
	15	自治的な活動	学級活動や児童会・生徒会活動等で、児童・生徒が自発的・自治的に活動できるように工夫しながら指導している。	4	2	0	0
保護者・地域との連携	16	情報発信	学校便りや学年便り、学校ホームページ等で、保護者や地域の方に、学校の教育活動の様子を分かりやすく知らせている。	3	2	1	0
	17	相談への対応	児童・生徒や保護者からの連絡や相談を丁寧に受け止め、適切な対応をしている。	2	4	0	0
	18	学校への参加	学校行事等では、保護者や地域の方が参加しやすいように工夫している。	3	3	0	0
	19	地域との連携	地域の行事などに協力的で、連携を図っている。	5	1	0	0
	20	意見の反映	保護者や地域から寄せられた意見や要望を受け止め、学校運営と教育活動の改善に努めている。	3	3	0	0
各学校の特色ある教育	21	人権尊重教育の推進	人権に関する講演会や学習会を通して、生徒が自他を大切にする意識を高められるように指導の充実を図っている。	4	2	0	0
	22	キャリア教育の充実	全校ハローワークや勤労留学などを通して、望ましい勤労観や職業観を育てるための指導を充実させている。	4	2	0	0
	23	社会貢献活動への参加	防災部やJRC活動、朝清掃・地域行事のボランティアに参加し、地域や社会のための活動に取り組んでいる。	2	4	0	0
	24	充実した学校生活	生徒は、委員会活動や部活動、学年・学級活動に主体的に参加し、自分らしさを発揮して生活を送っている。	4	2	0	0
	25	食育の推進	生徒の健康な食生活と食習慣を確立するために、学校全体で食育と給食指導に努めている。	5	1	0	0



(人数)

(%)

評価委員会からのコメント

生徒の評価は、学校側の説明や発信でよく理解しているように見られる。

学校内外で明るく挨拶をしてくれ、楽しく学校に通っている様子がうかがえる。

地域での生徒の様子は落ち着いて行動しており、危うさがないので安心して見守っている。

多感な時期の中学生には、「叱る」よりも「褒めて伸ばす」ことが大事だと思う。

来年度は、ぜひ「地域防災会議」を実施してほしい。

先生と生徒が信頼し合う中での授業は、学力の向上につながると感じた。

特別支援学級の授業では、生徒一人一人の個性に合わせた授業が行われていることがうかがえた。

学習習慣は、1年生のうちに鍛えておかないと身に付かない。日々学習を大切にする中学校での学習習慣づけと、授業に対する期待度を高める必要がある。

電子黒板を活用した授業は、視覚的・聴覚的にとても効果があると感じた。真剣に見入る生徒たちの姿が印象的である。

ステイホームが続く中、生徒が家で読書をする時間が増えたのではないかな。

全校生徒による医療従事者へのメッセージカードづくりや、特別支援学級の「シトラス・リボン・プロジェクト」の取組は、素晴らしい人権教育だと思う。

道徳講演会は東日本大震災を思い起こす内容で、私たちももう一度深く考える機会となった。

生徒に寄り添って支援していく必要がある。大事なことは、生徒と一緒に考えることではないだろうか。

学校行事が中止や延期、規模が縮小される中で、大人も変化に対応する力を身に付けていく必要を感じる。

生徒の企画・運営に任せてみることも大切なのではないかな。

毎月の一中通信で、生徒や保護者だけでなく、地域の人も学ぶことができるので嬉しい。

生徒や保護者が気軽に相談できる環境づくりや雰囲気づくりが大切と考える。

今年はコロナ禍のため、ほとんど参加できず残念に思う。

地域行事やボランティア活動が中止となったが、毎朝の地域清掃には感謝している。

全ての保護者の声を聞くのは大変であるが、意見交換の場や書面などで保護者の声を聞く機会をもつのも良いと思う。

人権講演会では生徒とともに保護者や地域の人にも真剣に人権について考え、学ぶ、大変有意義な機会である。

ハローワークと勤労留学が中止となったのは残念であるが、職業講話での生徒の生き生きとした様子をうかがい、中学生期のキャリア教育の重要性を感じた。

地域防災会議などで生徒がリーダーシップを発揮することで、地域への貢献とともに、生徒の自主性が育つと考える。

限られた学校生活の中で、生徒たちは自分にできることを見つけ、生き生きと活動しているようである。

今年はコロナ禍で、自宅で一人で食事をする機会が多かったのではないかな。食育の大切さを伝えてほしい。